



令和 2 年

## 第 4 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

---

---

はじめに	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・市民主体のまちづくりの推進	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	3
・交流活動の推進	4
・広域行政の推進	6
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	7
・地域医療の充実	7
・子育て支援の推進	8
・高齢者施策の推進	9
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	10
・環境との共生	10
・循環型社会の形成	10
・消防	11
・防災対策の充実	11
・交通安全	12
・生活安全	13
・消費生活の安定	13
・住宅の整備	14
・都市環境の整備	14
・上水道の整備	14
・下水道・個別排水の整備	14
・道路の整備	15
・地域公共交通	16
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	17
・農業・農村の振興	17
・森林保全と林業の振興	20
・商工業の振興	20
・雇用の安定	23
・観光の振興	23
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	25
・小中学校教育の充実	25
・大学教育の充実	28
・生涯学習社会の形成	29
・家庭教育の推進	31
・生涯スポーツの振興	31
・青少年の健全育成	32
・地域文化の継承と創造	33

---

---

本日、令和2年第4回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## はじめに

はじめに、本年度の文化賞等、各種表彰について申し上げます。

11月3日の文化の日に、名寄市文化賞条例に基づき、「名寄本よみ聞かせ会」に文化奨励賞を授与いたしました。

「科学部門」、「子どもの読書活動推進」で受賞された「名寄本よみ聞かせ会」は、昭和49年に創立され、以来45年以上にわたり子どもたちへの読み聞かせのほか、ボランティア団体や個人への読み聞かせの技術的指導などの活動に努めてこられた団体であります。

市立名寄図書館において、幼児や小学生を対象とした絵本や紙芝居の読み聞かせや、市内の小学校へ出向いて読み聞かせの活動をされております。また、市外からの要望にも応じており、その活動は本市のみならず市外の子どもの読書活動推進にも多大なる功績を残されております。

会員皆さんの「子どもたちを笑顔にしたい、子どもたちの笑顔を見たい」という優しい思いが、この45年以上にわたる活動につながったものと感じています。

本市としましても、市民の皆さんが豊かな心と知性を育み、生涯

にわたっていきいきと学べるまちを目指し、また地域が手をつなぎ合い、市民が輝くまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

次に、名寄市表彰条例に基づく各表彰については、自治、社会福祉、保健衛生、産業経済、労働、教育文化、住民運動実践の各分野で市勢の発展に寄与された17個人、1団体に功労表彰を、多額の寄附をいただいた10個人、35団体に善行表彰を、芸術、文化、スポーツなどの分野で輝かしい活躍をされた3個人、1団体に栄誉賞をそれぞれお贈りいたしました。

受賞された皆さんには、今後とも本市の発展にご尽力を賜りますとともに、より一層のご活躍とご健勝を願っております。

## **“市民と行政との協働によるまちづくり”**

### **市民主体のまちづくりの推進**

次に、コミュニティ活動の推進について申し上げます。

市民との協働によるまちづくりを進めるため、名寄市町内会連合会と連携のもと、全7会場で「まちづくり懇談会」を開催し、多くの市民のご参加をいただきました。

会場での貴重なご意見、さらには本年9月に実施した町内会アンケート調査の結果について、市政への反映に努めてまいります。

次に、広報・広聴事業について申し上げます。

多様な媒体による広報の推進を図るため、このたび、国内で利用者数が最大のSNSである「LINE」の公式アカウントを取得し、10月1日から公開しました。イベントなどの情報を写真とともに発信するほか、簡易な行政上の質問応答も可能となっています。今後も他自治体の先行事例を参考としながら広報活動を推進してまいります。

次に、国勢調査について申し上げます。

本年10月1日を基準日として、287調査区、約1万3千世帯を対象に、調査員185人、指導員27人体制で調査に取り組んでまいりました。

調査結果については、来年6月に人口及び世帯数の速報値が公表される予定となっています。

調査員、指導員の皆様のご尽力に感謝を申し上げますとともに、市民の皆様のご協力に対しまして厚くお礼を申し上げます。

## **人権尊重と男女共同参画社会の形成**

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

11月12日から25日まで、「女性に対する暴力をなくす運動」の取

組として、内閣府男女共同参画局が作成したポスターの展示を市内商業施設において行いました。この運動はパープルリボン運動と称されることから、多くの市民の興味を引くよう、会場をパープルのバルーンで装飾し、併せてDV(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談窓口の周知などを行いました。

## 交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流事業については、名寄・藤島交流友の会が主体となり、10月28日に本市のかぼちゃを、11月12日に鶴岡市の庄内柿を、それぞれの地域の小中学校で提供するとともに、給食日よりなどを通じて姉妹都市交流を伝える学校給食交流が行われました。

東京都杉並区との交流事業については、11月7日から8日まで杉並区立桃井原<sup>ももいはら</sup>っぱ公園で開催された「すぎなみフェスタ2020」において、杉並区職員などの協力もいただきながら、じゃがいもやかぼちゃなどの農産物やソフト大福などの販売を行いました。

ふるさと会との交流事業については、11月1日に東京なよろ会創立35周年記念事業として、カーリングのジュニア育成を目的に、カーリング用具贈呈式が道立サンピラーパークで行われました。本事

業が世界に羽ばたく選手育成の後押しとなることを期待します。

国際交流については、名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会と名寄・ドーリンスク友好委員会の共催で、9月中旬から10月中旬にかけて、風連庁舎と北国博物館を会場に、国際親善メモリアルホール移動展が開催されました。リンゼイとドーリンスク両地域との交流の経緯や、これまでの交流事業などについて紹介するとともに、記念品を展示するなど、国際交流事業をPRしました。

また、ドーリンスクとの交流では、友好都市提携30周年を来年に控え、プレイベントとして市内の料理人などに参加いただき、ロシア料理研究会を開催しました。

さらに台湾との交流事業については、10月16日に台湾国立中山<sup>ちゅうざん</sup>大学西湾学院<sup>せいわん</sup>と国際交流に関する覚書を締結しました。

覚書締結後の最初の事業として、11月25日に名寄産業高等学校と同学院とのオンライン授業交流を行いました。12月22日には名寄高等学校との交流を予定しています。

今後も、様々な交流事業を通じて、国際感覚を持つ人材の育成や、交流人口の拡大を図ってまいります。

次に、移住の推進について申し上げます。

11月16日に、名寄市移住促進協議会主催により、芸者東京株式会

社代表取締役CEO田中<sup>たいせい</sup>泰生氏を講師に招き「関係人口創出・拡大の可能性」をテーマとした講演会が開催されました。講演会には70人を超える市民の皆様の参加をいただき、天塩川の豊かな自然や景色は素晴らしい資源であり、関係人口創出の可能性があることなど、本市の魅力を認識していただく機会となりました。また、「移住体験ツアー」については、11月20日までに、首都圏から3件の利用がありました。利用者が必要とする情報の収集などを通じて、本市での生活をイメージしていただいたことから、今後も関係性のつながりを継続しつつ、移住推進に向け対応してまいります。

## **広域行政の推進**

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺10市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会」では、北海道の名付け親と言われる「松浦武四郎」の偉業を地域の子どもたちに伝えるために、絵本製作に取り組んでいます。現在、中川町在住の漫画家による作画作業を進めており、年度内には関係自治体の小学校や図書館、関連施設などに配布予定です。この取組を通じて、地域愛の醸成や歴史の再認識の機会拡充を図ります。

次に、定住自立圏について申し上げます。

11月6日に定住自立圏構成市町村長会議を本市で開催し、圏域生活基盤維持対策・産業振興分野における連携強化を図るため、協定内容の精査について確認されました。これに伴う定住自立圏形成協定の一部変更について、本定例会で提案させていただきますのでご審議のほどお願いいたします。

## **“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”**

### **地域医療の充実**

次に、名寄市立総合病院の本年度上半期の運営状況について申し上げます。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ4万3,736人で前年比4,598人の減となり、外来患者数では延べ10万4,924人で前年比10,787人の減となりました。収支の状況は、事業収益が前年比1億5,683万円減の46億7,711万円、事業費用が前年比1,178万円増の48億6,047万円となり、事業収支は1億8,336万円の純損失となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響が大きく表れた状況となっておりますが、今後も医業収益の確保や経費の節減に努めることにより収支の改善を図り、経営の健全化に向け、より一層努めてまいります。

次に、名寄東病院の本年度上半期の運営状況について申し上げます。

す。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ1万6,520人で前年比4,327人の増となり、外来患者数では延べ2,396人で前年比203人の増となりました。

また、収支状況では、事業収益は前年比3,762万円増の4億3,495万円、事業費用は前年比1,059万円増の3億947万円となり、事業収支は1億2,548万円の純利益となりました。

### **子育て支援の推進**

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

公立保育所等整備については、建設場所を現在の南保育所に隣接する公共用地に決定し、市民に喜ばれる保育所整備に向け基本設計の中で具体化してまいります。

乳幼児等医療費給付事業については、本年10月診療分から小学生の通院に係る医療費についても全額助成となりました。10月末現在、対象世帯の約9割から申請を受け付け、受給資格認定の後に受給者証を交付しています。未申請者については、病院などの受診の際に一度料金をお支払いいただき、受給資格認定後に償還払いをしております。

名寄市子育て世帯への臨時特別給付金については、新型コロナウ

ウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯を支援するために、児童手当受給世帯 1,925 世帯 3,245 人の児童に対し 1 人 1 万円を支給しました。

名寄市児童福祉施設等従事者慰労金については、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言中に放課後児童クラブや幼児教育・保育施設などにおいて勤務していた方に、慰労金として 1 人 5 万円を支給しています。

今後も関係機関と連携し、子育て支援の向上を図ってまいります。

## **高齢者施策の推進**

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

「長寿を祝う会」については、市内関係団体と実行委員会を組織し、9 月 19 日に市民文化センター E N - R A Y ホールにおいて開催しました。

長年にわたり本市の発展にご尽力いただいた、男性 102 歳と女性 108 歳の最高齢者をはじめ、白寿、米寿を迎えられた方々 223 人と金婚を迎えられた 83 組のご夫婦にご案内し、お祝いを申し上げ、記念品を贈呈しました。

併せて「名寄市生きがい作品展」を 9 月 16 日から 22 日まで開催し、106 点の力作の数々を市民の皆様にご覧いただきました。

また、町内会など 81 団体が敬老事業を実施し、75 歳以上の方々 5,249 人が温かい祝福を受けました。

今後も長年にわたり地域社会に貢献された高齢者に敬意を表し、その長寿を祝福するとともに、市内各地域で開催される敬老会の主催者に対する支援を行うことにより、市民の敬老意識の高揚を図ってまいります。

## **“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”**

### **環境との共生**

次に、合同墓について申し上げます。

緑丘霊園区画内において整備を進めていた合同墓建設工事が 10 月末に完了しました。来年度からの供用開始に向けた準備を進めてまいります。

### **循環型社会の形成**

次に、循環型社会の形成について申し上げます。

家庭ごみの排出が困難な高齢者や障がい者世帯などの日常生活の負担軽減を目的として、本年 10 月から「ごみ出し支援事業」を開始しました。今後も居宅サービス等提供事業所などにご協力をいただき、支援を必要とする世帯の利用拡大を図ってまいります。

## **消防**

次に、消防事業について申し上げます。

10月末現在までの火災及び救急・救助出動状況については、火災件数は8件で前年比6件の増となり、負傷者が3人発生しています。また、救急出動件数は837件で前年比54件の減、救助出動件数は12件で前年比24件の減となりました。

住宅防火対策の推進については、10月15日から31日までの「秋の全道火災予防運動」期間中に防火対象物や危険物施設の立入検査の実施、防火ポスターの配布、関係機関の協力による大型店舗での火災予防広報など、防火対策の啓発や火災予防のPR活動を行いました。

## **防災対策の充実**

次に、防災対策の充実について申し上げます。

本年度の名寄市防災訓練については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民参加型の訓練は中止とし、市職員を対象に2回実施しました。

第1回訓練は、新型コロナウイルス感染症を考慮した避難所運営についての検証訓練や、避難所開設時における感染症対策を講じた

受付配置や避難者誘導などについて研修を行いました。

第2回訓練では、ワークショップ形式での水害想定訓練により、災害対応の疑似体験を行い、気象情報や河川情報に関しての職員間の共通認識を深めました。また、北海道版避難所運営ゲームを活用し、コロナ禍において避難所で想定される対応の図上訓練を行い、避難所運営能力の向上を図ったところです。

洪水ハザードマップのさらなる普及浸透、住民等の水害に対する危機意識の醸成、避難所などの認知度の向上を図ることを目的として、生活空間である「まちなか」に水防災に係る各種情報を標示する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組については、各避難所や避難場所の66施設に89枚の標示板を設置し、名寄市街地の幹線道路の電柱35カ所には、避難方向や浸水想定などを示した標示版を設置しました。

今後も、国の「水防災意識社会再構築ビジョン」による天塩川流域の減災対策協議会の取組や、関係機関と連携した防災活動を推進するほか、市民の防災・減災意識の向上と啓発を図ってまいります。

## **交通安全**

次に、交通安全について申し上げます。

交通事故のない住みよいまちづくりに向け、9月21日から10日間

にわたって秋の交通安全運動が実施されました。期間中、市民や関係団体のご協力のもと街頭啓発などが取り組まれ、9月30日には西條デパート前において、市民や関係団体205人が結集した「旗の波作戦」を実施し、交通事故防止の啓発を行いました。

## **生活安全**

次に、生活安全について申し上げます。

不審者などの対策については、既に地域や各企業組合の協力による110番の家などの取組を行っているところですが、さらなる防犯対策として、「子ども・女性SOSの車」の取組を10月13日から開始しました。公用車に加え、市内ハイヤー会社とバス会社のご協力をいただき、約30台の車両にステッカーを表示することで見守り活動の強化を図ってまいります。

## **消費生活の安定**

次に、消費生活の安定について申し上げます。

11月7日に思考の整理収納塾代表の<sup>たがわみずえ</sup>田川瑞枝氏を講師に招き、「すぐに実践できる片付けのコツ」をテーマとした消費生活セミナーを開催しました。セミナーでは「利き脳」整理術や収納のコツについて70人の市民が学びました。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

公営住宅長寿命化改善工事として7月に着工した風舞団地1棟8戸の外部改修工事は、11月に完了しています。

## **都市環境の整備**

次に、都市環境の整備について申し上げます。

名寄市公園施設長寿命化計画に基づく施設整備については、ハルニレ公園は9月に、麻生公園は10月に完了しています。

## **上水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための老朽管更新工事については、国道40号老朽管更新工事ほか2路線が11月に完成しました。

また、検定期間満了にともなう水道量水器取替工事についても完成しています。

## **下水道・個別排水の整備**

次に、下水道事業について申し上げます。

下水道汚水管渠かんきよについては、公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠かんきよ更生工事2路線を10月に完了しています。

また、個別排水処理施設整備事業については、5基の合併浄化槽の受付があり、このうち1基が10月までに完了しています。

## 道路の整備

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている北1丁目通は9月に、南3丁目通と徳田18線緑丘連絡線は11月に工事が完成し、豊栄西12条仲通の改良舗装工事については、来年2月に完成を予定しています。

また、本市単独費により整備を進めている東5号線の舗装改築工事は10月に完成し、徳田1号線の改良舗装工事は12月に完成を予定しています。

橋梁整備では、東橋あずまばしと報徳2号橋ほうとくはしの修繕工事は来年2月の完成を予定しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長435キロメートル、排雪延長149キロメートルを実施する計画としています。

10月20日に風連地区、21日に名寄地区の除雪事業の契約を締結し、本年度においても効率的で効果的な除排雪体制の確立に努めるとともに、安全な道路空間の確保を図るため、幹線道路ではこれまで同様に複数回の排雪と積上げ除雪を実施してまいります。

## **地域公共交通**

次に、地域公共交通について申し上げます。

鉄路については、宗谷本線の利用促進に向けた取組として、宗谷本線活性化推進協議会において「宗谷線フォトコンテスト」を実施し、道内外の82人から127作品の応募をいただきました。また、宗谷本線の利用者を対象に、沿線市町村の駅の概要や周辺の観光地などを掲載した全12種類の「宗谷線ステーションカード」を、11月1日から名寄駅を含めた7つの有人駅で配布しました。

また、JR北海道は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として利用客の減少が続き、回復の見込みが立たない状況であることから、来春のダイヤ改正に合わせて特急列車の減便や臨時列車化する方針を明らかにしました。宗谷本線では、旭川 - 稚内間の特急「サロベツ」を現行の定期4本から定期2本と利用状況に合わせて年間30日程度運休する臨時2本とするとともに、旭川 - 名寄間の利用の少ない普通列車を中心に削減を検討する考えが示されました。

利便性が低下すると、さらなる利用者の減少につながりかねないことから、利用促進に資する取組などについて関係機関と連携し、宗谷本線の維持・存続に向けた取組を推進してまいります。

## “地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”

### 農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

はじめに、主要農作物の生育状況などについて申し上げます。

水稻については、10月15日現在の農林水産省の作況指数は、全国で99の「平年並み」となったものの、北海道は106、上川は107の「良」となりました。本市の11月17日現在の出荷状況は概ね8割で、もち米<sup>ごめ</sup>26万1千俵、うるち米<sup>まい</sup>1万7千俵、合計27万8千俵となり、一等米比率<sup>まい</sup>は約100パーセントで、収量は平年より良い状況となっています。

畑作については、秋小麦、春小麦は平年より作柄が良く、スイートコーン、馬鈴しょはやや良、かぼちゃ、てんさいは平年並みとなりました。大豆については、収穫期の降雨により品質低下が見られる状況ですが、総体としてよい年となったと受けとめています。

畜産については、9月末での過去1年間の生乳生産量は1万4,296トン、乳代は平均で1キログラムあたり104円となり前年同水準で

推移しています。

次に、経営所得安定対策について申し上げます。

まず、転作関係では、対象農家 506 戸、対象面積 2,882 ヘクタールで、水田活用の直接支払交付金が 5 億 9,386 万円、産地交付金が 8 億 3,233 万円となり、合わせて 14 億 2,619 万円の年内交付を予定しています。

畑作関係では、畑作物の直接支払交付金のうち、既に営農継続払い 4 億 2 万円が交付されており、今後は数量払いの交付を見込んでいます。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

本年度のエゾシカ駆除については、11 月 17 日現在で、530 頭を駆除し昨年より 178 頭増加し、アライグマ駆除についても、同日現在で 479 頭と 267 頭増加しています。

ヒグマ対策については、本年度の捕獲許可期間を 12 月 30 日までとしており、11 月 17 日時点の出没情報は、昨年度の総件数 49 件に対し 12 件少ない 37 件となっています。

次に、畜産振興について申し上げます。

公共牧場については、名寄牧場では5月25日から10月19日まで、母子里牧場では7月4日から10月20日まで市内酪農家11戸から240頭を受け入れ、適正な飼養管理により高い受胎率と個体の資質向上を図りました。

次に、地産・地消の推進について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした「なよろ産業まつり」の代替企画として、市民を対象に「もっともち米！餅もち川柳」の募集を行いました。268点の応募作品から選定した31点の入選作品を中心にカレンダーを作成し、広く周知してまいります。また、市内宿泊施設に宿泊された方を対象に、本市の特産品セットをプレゼントする秋の味覚キャンペーンには、546人からご応募をいただき、抽選により50人の方に農産物などを発送し、市外へのPRを図りました。

「2020 地産地消フェア in なよろ」については、例年より内容を縮小し11月14日に開催しました。地元野菜の詰め放題など名寄産農畜産物の販売を通じて、地産地消の推進に取り組みました。

もち米の消費拡大や産地PRを目的に作業を進めていた、「もち米ロゴマーク」については、10月5日に記者発表を行いました。今後、もち米関連商品への貼付やホームページなどにより、「日本一のもち

米のまち」として、市内外へ広く情報発信に取り組んでまいります。

## **森林保全と林業の振興**

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

森林環境譲与税を活用した取組については、本年度より、市の基本方針に基づき「森林整備」、「人材育成と担い手確保」及び「普及・啓発」などを推進しています。

「森林整備」では、間伐や下刈りなど 67 ヘクタールに補助を行っているほか、今後、野そ駆除や枝打ちなどへの補助も予定しています。

「人材育成と担い手確保」では、チェーンソー講習などに係る費用について、7 人分の補助を行っています。

また、「普及・啓発」では、森林の果たす役割や森林整備の必要性を市民に周知するため、町内会へのチラシ回覧やホームページへの掲載のほか、なよろ健康の森「もりの学び舎」でのパネル掲示を行っています。

今後とも、森林の有する多面的機能の持続的な発展に向けて、森林環境贈与税の有効活用を図ってまいります。

## **商工業の振興**

次に、商工業の振興について申し上げます。

北海道が公表している令和2年7月から9月までの地域別経済動向調査によると、上川北部地域の地域景況は人材不足・販路減少により依然として厳しく、生産・消費動向については「低調」と判断され、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から中止が相次いだ行事などについては、感染拡大状況を見ながら徐々に開催される兆しにあるものの、依然として消費が冷え込む傾向にあり、総合では「低調」と判断されています。

「名寄市ずっと住まいる応援事業」については、10月末時点で171件の申請があり、交付決定額は2,950万円となっています。

引き続き、地域経済の活性化と良質な住環境の整備を促進してまいります。

新型コロナウイルス感染症に関する商工業の支援施策では、給付事業の第2弾となる「名寄市がんばる中小企業応援給付金」については、9月30日で申請期間が終了し、総給付件数は496件、総給付額は1億983万7千円となりました。

商品券事業の第2弾となる市内店舗で利用できる「プレミアム付き商品券事業」については、当初の6万セットに続き、9月7日から追加発行の3万セットを販売しました。事業を実施している実行委員会からは、取扱店舗での利用は堅調に推移していると報告を受け

ており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内経済の回復と活性化を期待しているところです。

名寄市中小企業振興条例に基づく補助事業の拡充・緩和については、商工業者から大変好評をいただき、中心市街地近代化事業、店舗支援事業及び創業支援事業では、これまでにない多くの申請をいただいております。今後さらなる需要が見込まれることから、補正予算を提案させていただきますので、ご審議をお願いいたします。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況、国や道の施策、市の経済状況を注視しながら必要な対策を講じてまいります。

(仮称)名寄市商工業振興基本計画については、10月15日に第2回名寄市中小企業振興審議会検討部会を開催し、計画策定に向けて実質的な審議をスタートさせたところです。

王子マテリア株式会社名寄工場の生産品集約に関する名寄市緊急対策本部については、工場敷地の利活用について話し合いの環境が整ったと判断し、緊急対策本部の発展的な解消を行い、新たに「王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約に関する名寄市対策本部」を設置しました。

設置目的では、生産品集約の再考を求めることから、敷地の利活用及び雇用対策と改め、具現化に向けて関係機関と連携し検討を進めており、11月19日に王子マテリア株式会社を訪問し、工場敷地に

における新規事業への協力や雇用確保などの要望を行ってきたところ  
です。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における9月末現在の月間有効求人倍率は  
1.41倍で、新型コロナウイルス感染症の影響により、8カ月連続で  
前年同月を下回っているものの、求職者に対し求人数が上回る状況  
は継続しており、本年4月以降、5カ月連続で前月を上回っています。

また、9月末現在の来春の管内新規高等学校卒業予定者は597人で、  
このうち、学校・安定所の紹介を希望する者は145人で前年同月比2  
人の減、管内での就職希望者は85人で前年同月比3人の増となりま  
した。

引き続き、ハローワークをはじめ、関係機関と連携し、新型コロ  
ナウイルス感染症が雇用情勢に与える影響にも注視しつつ、雇用の  
安定と促進に努めてまいります。

## **観光の振興**

次に、観光の振興について申し上げます。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、9月末までの上半期に

おける入込客数が21万3,427人で、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度比8万4,767人の減少となりました。売上額も、一時期は前年度比の50%程度にまで落ち込みましたが、夏以降、GoToトラベルキャンペーンなど、経済活動の段階的な引き上げに伴い、前年度比80%以上にまで回復しています。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、指定管理者と連携し、地場特産品などの販売をはじめ、多くの方に利用いただける魅力ある施設づくりに取り組んでまいります。

また、10月には、なよろ観光まちづくり協会が、観光庁の「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業に採択され、新たな体験型観光商品の造成を目的とした実証事業を実施しました。観光農園での野菜収穫及び料理体験ツアーや、名寄振興公社と連携してピヤシリスキー場のグリーンシーズンでの利活用も併せて検討したサバイバルゲームイベントを行い、新たな生活様式を実践した観光商品・イベントの検証ができました。

名寄ピヤシリスキー場については、11月上旬からオープンに向けた準備を進め、安全で快適にご利用いただけるよう整備を行ってきました。また11月26日にはピヤシリスキー場安全祈願祭が行われ、シーズン中における安全と無事故を祈願しました。

今シーズンは、小中学生のリフト料金を無料化するほか、シーズ

ン券料金を大幅に値下げするなど、料金体系を見直し、足元マーケット対策を強化しました。

## “生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、学校教育について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、11月12日に風連中央小学校と風連中学校を会場として、名寄市教育研究大会を開催しました。風連中央小学校では、見方や考え方を働かせて、深い学びに向かう子どもを育むため、国語科の授業が公開され、授業改善のあり方について研修を深めました。

風連中学校では、主体的に学びに向かい、学びの連続を実感する生徒を育むため、数学科の授業が公開され、効果的な課題設定と振り返り活動のあり方について活発な協議が行われました。

また、名寄市教育改善プロジェクト委員会では、教育研究（研修）の充実に関する研究グループと教育指導の充実に関する研究グループにおいて、ミドルリーダー研修会や小学校高学年における効果的な教科担任制の推進に関する研修会、学習指導の諸課題への対応に関する研修会などを開催しました。

さらに、教育経営の充実に関する研究グループでは、10月28日に

名寄東中学校において、働き方改革推進委員会研修会を開催し、各学校の実情や取組を共有するなど、活発な意見交換が行われました。

道教委の学校力向上に関する総合実践事業の推進については、11月27日に名寄南小学校を会場に、地域連携研修が行われました。研修では、国語科と特別支援学級の授業が公開され、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、進んで学ぶ子どもを育むための活発な協議が行われました。

また、各学校の学校力向上に資する効果的な取組を共有するため、名寄西小学校と風連中央小学校を会場に、名寄市地域協議会を開催し、学校経営方針を家庭・地域に浸透させる取組や学習規律の徹底を図る取組などについて研修を深めました。

豊かな心を育てる教育の推進については、児童生徒の豊かな情操を育むため、9月24日に市民文化センターE N - R A Yホールを会場に、名寄市小中学校音楽発表会を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策として、発表内容を器楽や和太鼓、吹奏楽の演奏に限定したほか、保護者の方には別室で映像にて鑑賞していただきました。

また、「特別の教科道徳」の指導の充実を図るため、名寄市教育研究所の道徳班が中心となり、キャリア教育と関連付けながら、木原天文台を建設した故木原秀雄氏の生き方を題材とした読み物資料を

使った授業研究を行うなど、指導方法などの改善・充実を図る取組を推進しました。

健やかな体を育てる教育の推進については、名寄市教育研究所の体育保体班が中心となり、各学校で実施した新体力テストの結果を分析し、子どもの体力のより一層の向上を目指し、実技研修会を実施しています。

特別支援教育の推進については、11月9日に市民文化センターにおいて、名寄市立大学の教授を講師に招き、「困難を抱えている子どもへの指導の手がかり」をテーマに、市内小中学校の教職員などを対象とした研修会を行いました。研修会では、本市はもとより士別市や美深町、下川町の教職員など89人が子どもたち一人ひとりの困り感に応じた指導・支援のあり方について学びました。

社会の変化に対応する力を育てる教育の推進については、10月15日に名寄市学校教育情報化推進委員会を開催し、GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に向けて必要となるICT環境の整備などについて協議しました。

今後は、名寄市教育改善プロジェクト委員会が中心となり、1人1台端末を活用した指導方法などについて研修を進めていきます。

信頼される学校づくりの推進については、10月20日に第3回地域学校協働本部連絡協議会を開催し、各学校の課題や要望などを共有

するとともに、地域学校協働活動の推進のあり方などについて協議しました。

今後は、地域コーディネーターが学校を定期的に訪問するなど、学校と一層の連携を図りながら、地域学校協働活動の充実を図る取組を進めていきます。

安全・安心な教育環境の整備では、智恵文小学校の耐震化に合わせ、小中一貫教育の推進を図り、智恵文中学校に小学校を併設した義務教育学校とするため、地域やPTAの代表者、学校関係者などによる智恵文義務教育学校開校準備委員会を設置し、基本設計の検討を進めています。

学校給食では、コロナ禍によるインバウンドや外食需要の減少により、在庫が余剰となった国産水産物や和牛の消費拡大を図るため、農林水産省の施策として学校給食へ食材の無償提供がありました。水産物では大ぶりのホタテを使用したホタテカレーやホタテフライを、畜産物では道産和牛を使用したビーフカレーや牛丼を提供し、児童・生徒から好評を得たところです。

## **大学教育の充実**

次に、名寄市立大学について申し上げます。

名寄市立大学への理解を深め、進路決定の参考としていただくた

め、検温や手指消毒などの感染症対策を講じた上で、高校生と保護者を対象にオープンキャンパスを10月17日に午前と午後の2回に分けて開催しました。高校生199人、保護者173人の参加があり、昨年と比較して高校生で41人の増となりました。生徒には模擬授業とキャンパスツアー、保護者には大学概要などの全体ガイダンスを行いました。

本年度で14年目となる名寄高等学校との高大連携事業を、10月7日に実施しました。本年度は、大学から高校へ訪問する形で行い、名寄高等学校1年生91人が参加する中で、大学生から学生生活、進路選びのタイミングやきっかけを話し、その後、生徒からの探求課題提案に対して、大学教員が課題の実現可能性や進路を一つに絞るまでのプロセスを検討する演習を行っています。

今後も、地域に根ざした教育活動の展開と名寄市立大学の特色と専門性を活かした地域貢献活動の取組に努めてまいります。

## **生涯学習社会の形成**

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

名寄ピヤシリ大学では、市民文化センターを会場に、第31回大学祭を開催しました。

10月13日からの作品展示では、修学旅行や研修旅行の報告のほか、

各学生の工夫を凝らした作品を展示し、期間中訪れた多くの市民が作品を楽しみました。20日には芸能発表が開催され、各学年やクラブが練習の成果を発表し、来賓、一般合わせて約40人の市民がステージを楽しみました。

次に、市立図書館について申し上げます。

10月14日に市内小中学校の図書室担当者会議を、15日に読み聞かせ連絡会議を開催し、活動状況や相互連携について協議しました。今後においても関係者と連携を図りながら、幼児や児童生徒の読書環境づくりに取り組んでまいります。

10月27日から11月9日の読書週間には、「雑誌リサイクル」や「フィルムコートサービス」、お勧めする本の書評を競う「ビブリオバトル」などを行い、子どもから大人まで多くの方の参加をいただき好評を得たところです。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために延期となっていた開台10周年記念講演会を、10月10日に開催しました。国立天文台石垣島天文台との協定が縁となり、国立天文台水沢V L B I観測所の

ほんままれき  
本間希樹きき所長をお招きし、最新のブラックホールに関する研究につ

いてご講演いただきました。市内外から 96 人の方が参加し、熱心に耳を傾け、10 周年にふさわしい講演会となりました。

11 月 1 日に一般社団法人天文教育普及研究会北海道支部との共催により、「北海道金環日食まであと 10 年」をテーマとして、オンライン及び対面形式での研究会を開催しました。2030 年に北海道で金環日食が観測されることから、2012 年の本州での金環日食の際に、安全な観測の呼び掛けや大勢の来館者の対応にあたった天文台の方に、この 10 年間で準備すべきことなどを伺いました。

## **家庭教育の推進**

次に、家庭教育の推進について申し上げます。

11 月 15 日に、家庭教育学級の合同研修会として、国立大雪青少年交流の家から講師を招き「親子ふれあい体操」を市民文化センターで開催しました。13 組 32 人の親子が参加し、軽運動でのふれあいを楽しんだところです。

## **生涯スポーツの振興**

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ施設の整備については、スポーツセンターの非常用照明の取替工事を行い、停電時における利用者の安全を確保するととも

に、経年劣化による損傷が著しかった第2体育室の床の改修工事を行い、利用者が安心して利用できる環境を整えました。

次に、スポーツ大会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響で延期をしていた「第68回なよろ憲法記念ハーフマラソン」を、市民限定にするなどの感染症対策を行いながら9月20日に開催し、221人のエントリーをいただきました。

スポーツ振興事業については、Nスポーツコミッション主催事業として「Nスポ健康ステーション」が駅前商店街に開設されました。

この事業は、身近なスポーツ環境のニーズ調査などを目的に、体を動かして健康づくりに取り組めるプログラムを提供するもので、9月から来年1月まで週3回のペースで開設されます。

さらに、10月11日に同じく駅前商店街において、スポーツによる地域の元気づくりを目的に、名寄市商店街連合会や名寄警察署など多くの関係者のご協力のもと「街なか運動会」が開催され、746メートルリレーや買い物競走などの種目に274人の市民が参加しました。

## **青少年の健全育成**

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

10月4日に、本年度1回目の「わくわく！体験交流会」を開催し、小中学生の参加者13人が、高校生のシニアリーダーや大学生ボラン

ティアのサポートのもと、テント設営や飯ごう炊飯などのアウトドア活動を体験しました。また、11月14日には第2回目を開催し、カーリング体験により交流を深めました。本年度の事業は、コロナ禍の影響により開始が遅れましたが、10月から来年2月まで、全5回の体験交流会を予定しています。

11月23日には、スポーツセンターを会場に、第14回名寄市子ども会フットサル大会を開催しました。町内会の子ども会や小中学校から27チーム166人の児童生徒が、スポーツを通じて交流を深めました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

10月12日に名寄市青少年表彰式を行い、学校や地域活動などにおいて顕著な功績のある3個人、1団体を表彰しました。

また、小学生から高校生までを対象に、10月から名寄市青少年健全育成標語を募集し、11月27日に最優秀作品の表彰を行いました。

## **地域文化の継承と創造**

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

11月1日から3日まで、市民文化センターを会場に、第63回市民文化祭を開催しました。展示発表は29団体、3個人から陶芸、書道、

絵画など 1,056 点に上る作品が出展され、3 日間で延べ 1,000 人を超える来場がありました。3 日には、市民文化センター E N - R A Y ホールを会場に芸能発表を開催し、舞踊や合唱、楽器演奏など 19 団体が出演し、約 500 人の市民が鑑賞しました。

また、11 月 2 日から 3 日にかけて、ふうれん地域交流センターを会場に、風連文化祭を開催しました。会場には 20 団体、5 個人から 676 点の作品が展示されました。芸能発表では、小学生から高齢者まで 18 団体、1 個人から 141 人が演奏や踊り、歌などを披露し、会場に集まった延べ 300 人の市民は楽しいひと時を過ごしました。

次に、北国博物館について申し上げます。

9 月 1 日の「防災の日」に合わせて、9 月 1 日から 29 日まで企画展「名寄の水害史」を開催し、期間中 1,117 人の来館者がありました。天塩川や名寄川は住民生活に恩恵を与えてくれる一方、洪水により農林業や鉄道、道路などの交通、家屋浸水など住民生活に大きな被害をもたらしてきました。展示内容は、過去の被害状況の写真や避難時に実際に使用した木造舟を展示するとともに、「名寄市防災マップ」や非常持出品の実物を展示し、防災意識を高める一助としました。

## 下水道使用料の賦課漏れについて

最後に、下水道使用料の賦課漏れについて申し上げます。

11月6日に記者発表にてご報告したとおり、水道を使用し公共下水道に接続されているにも関わらず下水道使用料を賦課することなく未徴収になっている、いわゆる賦課漏れがあることが判明しました。

11月9日から、現地確認調査を必要とする対象住宅及び施設43件を訪問し、調査を行った結果、賦課対象件数31件、賦課が漏れていた下水道使用料は、2,988万1,987円、そのうち、時効未到来であり遡及する下水道使用料は、591万7,470円となったことをご報告申し上げます。

下水道使用料の賦課漏れにより、負担の公正、公平性を損なう事態を招き、また、賦課漏れの対象者となる皆様に、遡及して下水道使用料の納入をお願いすることとなり、公共下水道をご利用いただいている市民・企業の皆様にご迷惑をおかけしておりますことを心より深くお詫び申し上げます。本事案を重く受け止め、本定例会最終日には、自身を含め責任の所在を明らかにさせていただきたいと思っております。

今後、賦課対象となった皆様には丁寧にご説明申し上げ、納付方法については相談の上対応するとともに、再発防止に向け、適正な

事務処理に努めてまいりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告いたします。